

## 犬とのくらし

五年 江村美季

私は一年生の夏休み、知り合いの方から子犬をもらいました。その子犬を初めていただいた時、小さくてかわいくて、毛がフワフワやわらかく、とてもあたたかく感じたことを今でもおぼえています。そして子犬の真っ黒く丸い目と目が合った時、今日から私達は家族になるんだなと思いました。

その日から私が子犬にいろいろな事をあたえていくものだと思っていました。私があたえたものは名前の福助くらいで、今では私の方がたくさんあたえられ、助けられていることに気がつきました。福助が来てくれたことで、楽しい時間がふえました。ねているすがたを見ているだけで、とてもいやされます。興ふんしている時は、おもちゃ箱やベットをとばし、ケージをずらしてちらかし放だいで、その様子を見るとおもしろくてその後のかた付けを忘れるくらい笑えます。ゴロンと横になつているときになるとおなかを見せてきて、ちよつと口をあけるすがたが、とてもかわいくてたくさんでたくなります。福助の日常のふるまいすべてがかわいく感じ、いやされています。

福助と散歩をするようになっていままで見すごしていた近所の四季も感じるようになりました。花・チョウ・セミ・カニ・トンボ・落ち葉・雪・鳥のさえずりなど、季節の発見ができました。とくに私が好きな様子は、両手で地面をたたいて虫をおいかけますが、カニと遊ぶへっぴりごしがた、落ち葉の中に入ろうとするすがた、雪を食べようとするすがたがおもしろくて、福助といっしょに四季を感じる散歩が楽しいです。

福助が来てくれたことで命の大切さも知りました。食べたい時に食べ、ねたい時にねて、走りたいたい時におもいっきり走る、それが生き物だと思いました。

ある日、私が見てないところで福助の足に赤いキズがあり、急いで動物病院につれていきました。私は福助がいつどこで、どうやってケガをしたのかなぜ気付いてやれなかったのか、とても心配になりました。そんな私に動物病院の先生は、「軽いかすりキズだから大丈夫だよ。」と薬をぬってくれました。私は、安心して福助をだきしめました。言葉の話せない福助をむかえたからには、体調をしつかり見る責任も必要なのだと思います。

福助を家族にむかえられて、いろいろなことを学び、発見し、助けられています。楽しい時間もふえ、運動する時間もふえました。コロナかで友達にも会えないさびしい日を楽ししくしてくれました。私が毎日心がけてやっていることは、福助がさびしくないようにだきしめて、「大好きだよ」と伝えることです。

これからも、いっぱい話しかけいっぱい遊んで福助と楽しい時間をすごしていきたいです。わがやに来てくれてありがとう。